

TAKE FREE

July, 2022

YORII ARIKI -WALK AND LOOK- あっ

LOOK

創刊号

№001

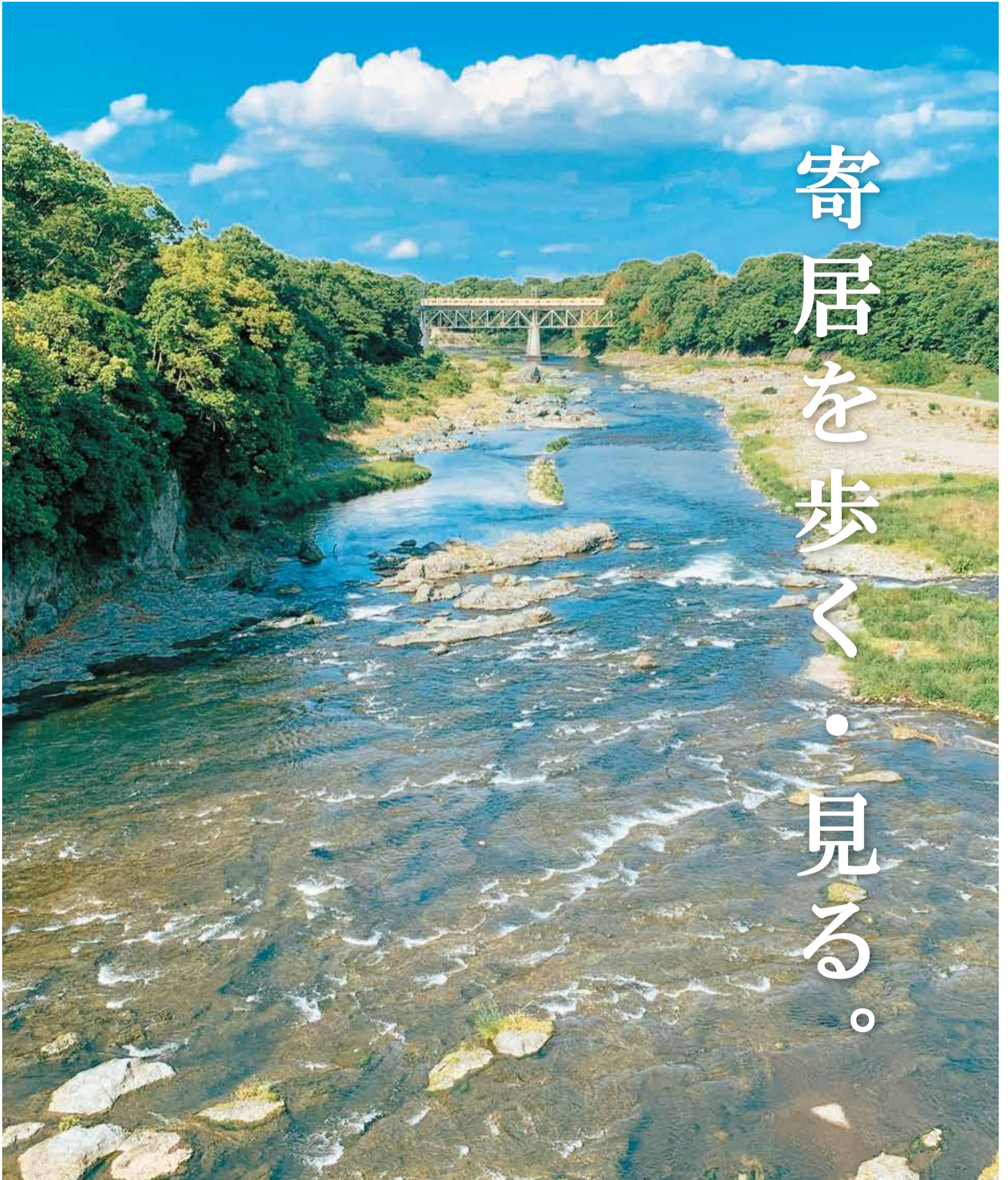
A-LOOK YORII

寄居を見て、歩く まちなか情報誌

あっLOOKは、株式会社まちづくり寄居が発行するまちなか情報誌です。寄居町のさまざまな情報を皆さんにお届けします。寄居を歩き、町を見て、皆さんのお気に入りを見つけてください。

CONTENTS

- P2 中心市街地を歩く。 P5 見どころ寄居。ー夏編ー
- P3 和装が似合うまち。 P6 まちづくり活動。
- P4 寄居を食す。vol.1 P7 ヨリイノアート。



寄居を歩く・見る。

30 MINUTES WALK

まちなか散策おすすめコース！

2023年春オープン予定!

寄居駅南口駅前拠点施設



中心市街地活性化事業により、賑わい創出のため、寄居駅南口に建設中の複合施設。町民の憩いの場、来訪者をおもてなす場として、様々な機能を備えます。1階は、観光案内、移住定住相談、喫茶スペース、休憩スペース、2階は多目的ホール、屋上からは寄居の山並み、まち並みが一望できます。

徒歩
10分

七代目松本幸四郎別邸跡地

雀宮公園



歌舞伎の名優・七代目松本幸四郎丈の別邸跡地が整備され、公園として開放されています。約1万㎡の園内では、四季折々の風景を楽しむことができ、年間を通じて荒川の流れを眺めることができます。特に、秋の紅葉シーズンには、モミジやカエデが、園内を紅く染め上げます。また、十代目幸四郎丈のメッセージを彫刻した石碑も設置され、多くの人を楽しませ、町民の憩いの場となっています。

徒歩
5分
川沿いの
遊歩道を歩こう！

県指定名勝「玉淀」

玉淀河原

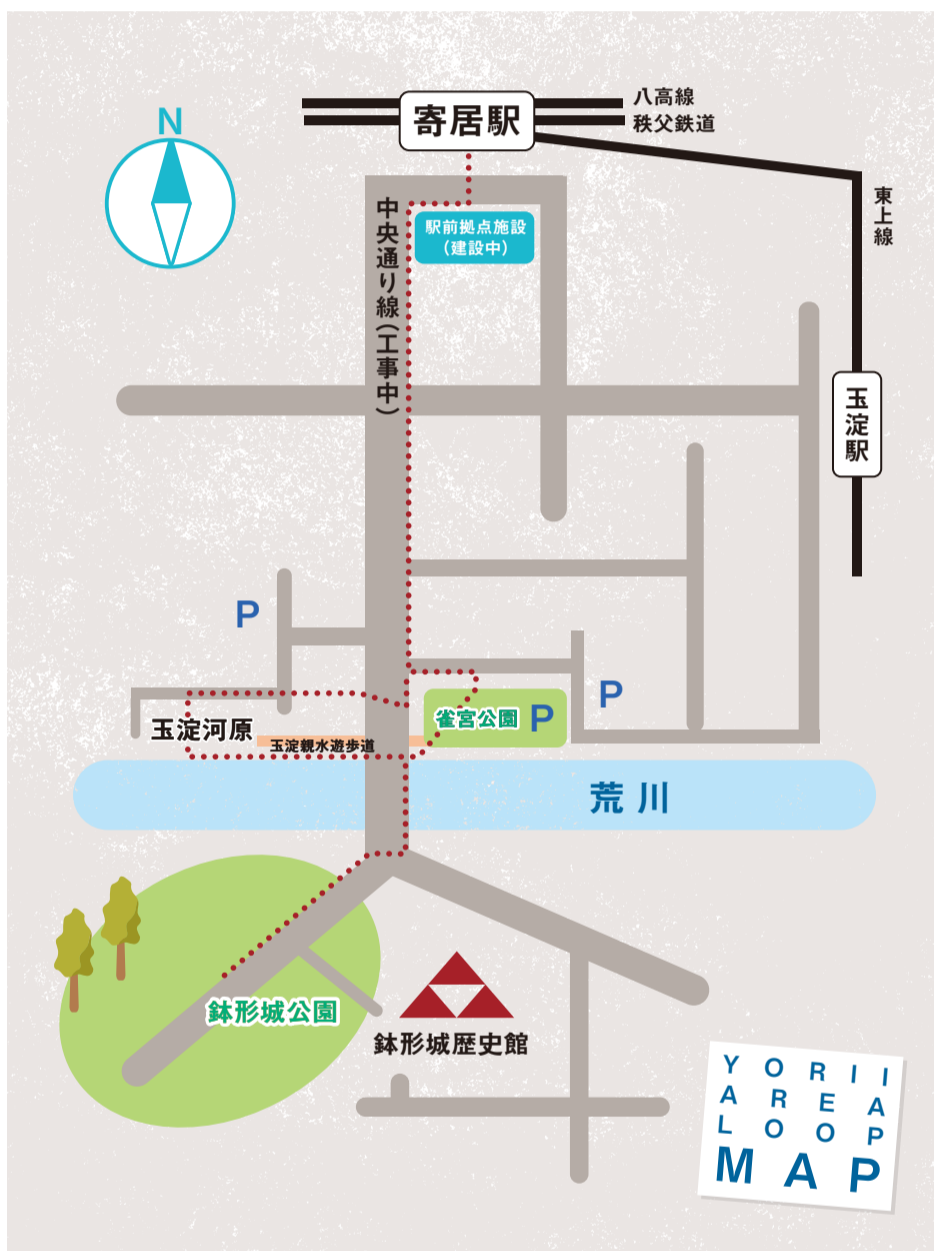


昭和10年に埼玉県から名勝に指定された玉淀。“美しい玉のような淀み”に由来し、町民の憩いの場となっています。令和2年には、雀宮公園から玉淀河原まで遊歩道が整備され、川沿いを散策することができます。また、寄居北條まつりや、寄居玉淀水天宮祭花火大会の開催場所になっており、寄居町のイベントに欠かせないスポットです。



中心市街地を歩く。

寄居町の中心市街地は、かつての秩父往還の街道筋にあり、江戸時代から物資の集散地として栄えました。昭和初期には、中心市街地の南側に位置する玉淀周辺は、荒川が造り出した奇岩、絶景の景勝地として、多くの観光客で賑わい、玉淀周辺の荒川沿いには、文化人の別邸・邸宅が建ち並んでいました。現在、寄居駅南口は中心市街地活性化事業により、様々な整備が行われ、どこか懐かしい風景を残しつつ、コンパクトで暮らしやすいまちへ、日に日にその姿を変えつつあります。そんな時代が交錯する寄居のまちなかを歩いてみませんか？ 寄居駅から歩いて行けるおすすめの散策コースをご紹介します。



日本100名城

鉢形城公園



徒歩
15分

日本100名城にも選定されている鉢形城。深沢川と荒川が出会う断崖絶壁の上に築かれ、天然の要害をなしています。1590年、豊臣秀吉の小田原攻めの際には、北条氏の重要な支城として、攻防戦を展開し、約3500の兵で、約50000の豊臣軍を相手に、1か月余り籠城したといわれています。敷地内には、鉢形城歴史館があり、多くの歴史ファンが訪れます。



和装が似合うまち。

寄居町には古いまち並みが多く、昭和を感じる風情ある建物が多く残り、独特の雰囲気醸しだす面白いまちです。最近では、若い世代がレトロな場所で撮影した写真を数多くSNSにアップするなど、ちょっとしたレトロブームとなっています。寄居町は地域のお祭りが盛んで、昔ながらの法被姿が当時の賑わいを感じさせ、人情や粋、想いなどを感じられる和装が似合うまちでもあります。

慌ただしい毎日に疲れたら、昭和レトロなまち並みを歩いてみませんか？ 四季折々の自然を楽しむことができ、歴史を感じられる商店も多く、当時にタイムスリップをしたような非日常な世界に導いてくれます。寄居の美食に触れ、豊かな自然を感じながら、お気に入りのスポットやお店、グルメを見つけてみてはいかがでしょうか。



① 県指定名勝「玉淀」 ② 玉淀河原へ続く趣ある通り ③ 市街地にあるレトロな陶器店 ④ 市街地の通りの何気ない趣
⑤ どこか懐かしい瓶のラムネで一服 ⑥ 老舗割烹料理店 ⑦ 古へに思いを馳せ、雀宮公園を散策

和装でそぞろ歩き。

歴史ある京都や鎌倉など、古い佇まいを残す観光地を訪れると、浴衣や着物姿を見かけることがあります。ここ数年は、コロナ禍でどこかの観光地も海外からの観光客を見かけることは少なくなりましたが、古きよきまち並みを和装で散策することは、海外の方はもちろんですが、日本人にとっても、日本のよさを改めて感じるよい機会になるのではないのでしょうか。

そうは言っても、和装といふとなかなかハードルが高いもの。自前の和服を持っていない、持っていない自分では着られない等々。国内の有名観光地では、和装体験ができるサービスを提供しているところもあり、非日常を体験することができます。残念ながら、寄居町には今のところそのようなサービスはないようです。

しかしながら、寄居町も有名な観光地に負けないくらい和装が似合うまちです。寄居町には、古きよきまち並みと、多くの路地があります。また、荒川沿いには、その景観に魅了され、多くの文人、芸術家が愛した地であることからわかるように、趣のある風景が昔と変わらぬまま残っています。

町全体から独特の空気感を感じることができ、不思議な場所、それが寄居町です。昭和レトロなまち並みを和装でそぞろ歩き。写真からでもその雰囲気を感じていただけるのではないのでしょうか。



寄居を食す。vol.1

寄居駅は、JR八高線、東武東上線、秩父鉄道の3線が乗り入れる交通の要衝。その寄居駅の南口は、現在、大規模な整備が行われ、生まれ変わろうとしています。寄居駅周辺を散策しながら、気軽に立ち寄れるお店を紹介します。歴史あるお店と新しいお店が融合し、寄居の魅力を高めています。寄居のまち歩き、食べ歩きには、このまちでしか出会えない「寄居町ならではの」魅力が詰まっています。ここでは、紹介しきれませんが、皆さんも、お気に入りのコース、お気に入りのお店を見つけ、寄居のまち歩き、食べ歩きを気軽にお楽しみください。お待ちしております。

2 今井屋 IMAIYA クセになるタレかつの名店。寄居といえばこのお店。

寄居でかつ丼と言えば、タレかつ丼を指します。寄居駅南口にある今井屋さんも、明治後期に創業した老舗で、そのタレかつ丼の味を求めるお客さんが行列をなす、レトロな雰囲気が漂う超有名店。肉厚の豚も肉を使用したサクサクの衣を纏った2枚のとんかつは、秘伝の甘じょっぱい醤油ダレが染み込み、王者の風格すら漂います。絶妙な炊き加減の白米にもタレが染み込み、自家製漬物と三位一体となったその丼ぶりは、箸を動かす手が止まりません。



同じく人気のカツライスも驚きのボリュームで、3cmを優に超えると思われるジューシーなカツをおもいきり頬張れば、満足すること間違いなしです。また、寄居ならではの、豚肉を使用した親子丼もあり、寄居の豚食文化の奥深さを感じることができます。



寄居町寄居1236-1
☎048-581-0464
11:00～14:00
16:00～17:00(要予約)
ⓧ日曜、祝日
※寄居駅南口徒歩3分

3 たいやき あきちちゃん TAIYAKI-AKICHAN

カリッとホクホクのたいやきの名店。寄居で知らない人はいないほどの寄居名物です。



寄居のおやつと言えば真っ先に思い浮かぶ焼き屋さん。休日には行列ができるほどの人気です。しっぽの先までたっぷり入ったホクホクのあんこと、カリッとモチモチの生地をほお張ると、至福の時間！焼きそばやフレンチドックなども、人気メニューです。

寄居町寄居933-1
☎048-581-3947
10:00～17:00
ⓧ月曜
※寄居駅南口徒歩7分

1 洗濯船 SENTAKUBUNE

歴史を感じる、隠れ家のような喫茶店。自家焙煎のコーヒーは絶品です。



まるで時間が止まったかのようなカフェ。一步足を踏み入ると、コーヒーの香りが漂う別次元の空間が迎えてくれます。老舗のカフェらしく、飾り気のないメニュー。マスターが一杯一杯淹れるコーヒーは絶品で、昔懐かしいナポリタンもオススメ。ケチャップをベースとしたスタンダードなナポリタンは、癖になるまた食べたくなる味です。目立たない場所にひっそりと佇み、訪れる人を非日常へと導いてくれるカフェです。

寄居町寄居984-1
☎048-581-4097
10:30～18:00
ⓧ不定休
※寄居駅南口徒歩15分

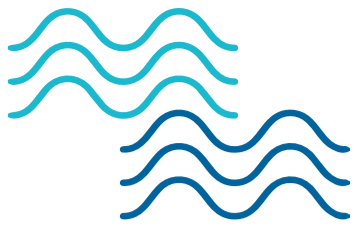
4 寿し信 SUSHI-NOBU

昭和2年創業の老舗。稲荷ずし、助六ずし、伊達巻がオススメ

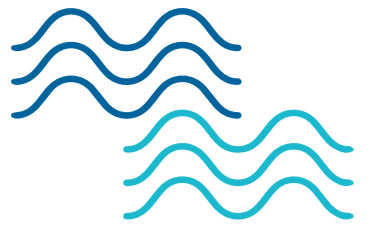


玉淀駅からほど近い老舗の寿司屋。この地で3代に渡り愛される江戸前寿司の名店は、確かな腕と豊富な知識のご主人が、天然ものにこだわった極上ネタに、煮切りを引いた正統派江戸前寿司を握ってくれます。その日の仕入れによっては、ほかでは会えない珍しいネタに出会えることも。ランチでは、握りか、ちらし寿司のいずれかを選ぶことができ、老舗の逸品をリーズナブルに楽しめます。実直なご主人と朗らかな奥様とのカウンターでの時間は、おなかだけでなく心も満たされ、地域に愛される理由がわかります。

寄居町寄居853-3
☎048-581-0305
11:30～14:00
17:00～22:30
ⓧ月曜
※玉淀駅徒歩3分
予約をしていただくとスムーズです。



見どころ寄居。-夏編-



The highlight in summer

寄居町は、「水の三冠王」のまちです。「水の三冠王?」と思う方もいるかもしれませんが、昭和60年に環境庁(現在の環境省)から、「風布川・日本水」が「名水百選」に、平成7年には、林野庁から、「日本水の森」が「水源の森百選」に、同じく平成7年に、国土庁(現在の国土交通省)から、町全域が「水の郷」に認定されました。このようなことから、寄居町は水にちなんだお祭りやイベントが数多くあることもうなずけます。

寄居玉淀水天宮祭

夏のイベントといえば、毎年8月第1土曜日に開催される寄居玉淀水天宮祭花火大会。ここ2年間は、コロナの影響で残念ながら中止となっていますが、寄居の夏は、水天宮祭抜きでは語れません。各町内からボンボリや提灯で飾られた舟山車が荒川を遊覧し、鉢形城跡から打ち上げられる約5000発の花火との幻想的な共演は、「関東一の水祭り」と称されています。今年はコロナ収束を祈願し、自宅でも花火を楽しむことができるよう15分間花火を打ち上げ、その模様をライブ配信でお送りします。また、打ち上げの様子や水天宮祭の歴史等をまとめた特別番組も8月下旬にテレビ埼玉で放送される予定です。今年は一味違う夏の風物詩をそれぞれのスタイルでお楽しみください。



荒川いかだ下り

毎年8月に行われる寄居の母なる川・荒川を自作のいかだで下るというシンプルなイベント。「川の流れてに乗って町を眺めたら、どんな発見があるだろう!」との思いから始まった寄居の夏の風物詩。荒川、そして水に愛着を持つ寄居ならではの恒例イベントです。※今年は開催されません。



風布川・日本水

名水百選に認定されている風布川・日本水(やまとみず)。寄居町の西の山間部から流れ出す風布川は、約6キロメートル下り、荒川に合流します。日本水の源流は、その昔、日本武尊が連勝を祈願して大岩に剣を突き刺したところ、たちまち湧き出たという伝説があります。現在、源流域には、危険防止のため立ち入れませんが、地元「名水保存会」の方々が整備した水汲み場があり、遠方から日本水を求めて来町する方が後を絶たないほど、人気の天然水です。



注)「日本水水汲み場」※必ず煮沸して飲んでください。



カヌー・カヤック

秩父鉄道波久礼駅にほど近いダム湖「玉淀湖」。ここでは、川のアクティビティが充実! カヌーやカヤックを始め、最近人気のSUPも楽しめ、わざわざ遠方から足を運ぶ人も。大自然の中で水面に浮かぶと、いつもとは違うゆったりとした時間が流れ、非日常を体験できます。運が良ければ、湖上からSLを眺めることもできる他にはないアクティビティスポットです。まずはショップに問い合わせ、気軽にカヌー・カヤックを体験してみてください。

イベント等は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止等となる場合があります。このページに記載した内容については、下記までお問い合わせください。

寄居町商工観光課 ☎048-581-2121

まちづくり活動。

—Town Planning Activity—

朝顔「団十郎」を楽しむ会

『朝顔「団十郎」を楽しむ会』の皆さんは、独自にまちづくり活動を展開されています。会の名の通り、一昨年からは、幻の名花とも言われる朝顔「団十郎」を育て上げ、見事『顔見世』に成功しました。会員は年齢も職業もそれぞれのユニークな団体です。全国的にも珍しい同会の皆さんの活動をご紹介します。



— 発足のきっかけ —

同会栽培指導員の宇田川さんが「団十郎」のタネを7粒譲り受けたことを機に、このプロジェクトが始まりました。場所は、雀宮公園近くのセブンイレブン寄居駅南店に隣接する同会の会員でもある新井さんの自宅。令和2年の4月にタネを植えたところ発芽し、6月にはフェンス下に植え替え、7月には開花しました。幅12メートルのネットに直径10〜15センチメートルの大輪の花が咲き、地元の方を中心に多くの方が鑑賞し、幻の朝顔を楽しみました。

— 朝顔「団十郎」とは —

朝顔「団十郎」は、我々がよく見る朝顔よりも大きく、色は海老茶色。江戸の歌舞伎役者・市川団十郎に由来するといわれている人気種の一つで、かつては東京・江戸川区界隈でたくさん生産されていました。しかし、夜間の温度が25℃を超える熱帯夜が続くとタネがつきにくく、タネの確保が難しいという二面も。このようなことから、一時は生産量が激減し、「幻の朝顔」とも呼ばれるほどまでになったそうです。

— 二年目の取り組み —

多くの花を咲かせた活動一年目、花が咲いた後にタネを採取し、翌年の取り組みに備えました。二年目(令和3年)は、水やり、雨水と井戸水を活用するなど、二年目にはなかった工夫もみられました。12メートル程だったネットの幅も、二年目は、歌舞伎座の舞台と同じ幅(27メートル)にするというこだわりも。一年目以上に多くの朝顔が大輪の花を咲かせ、7月には、念願であった「朝顔市」も開催し、大盛況となりました。

— 幸四郎と団十郎 —

会員の皆さんが作業をしている新井さん宅は、雀宮公園にほど近い場所にあります。雀宮公園は、七代目松本幸四郎丈の別邸跡地を町が整備し、一般に公開されています。七代目松本幸四郎は十一代目市川団十郎の実父であることから、寄居町にも所縁があり、朝顔「団十郎」は雀宮公園に華を添えています。

— そして、三年目へ —

三年目の今年は、4月に種付けをし、6月に講習会、そして、朝顔見世興行は、団十郎所縁の雀宮公園と浄心寺で行います。町の協力も取り付け、念願の雀宮公園での顔見世が実現します。

問い合わせ
080-9434-8584 (宇田川さん)



寄居で遊ぶ。

寄居でのキャンプ、バーベキューは
かわせみ河原へ!

かわせみ河原は、寄居町の中央部を流れる荒川の河川敷です。関越自動車道花園ICからも近く(車で約10分)、釣りやカヌー、キャンプ、バーベキュー等を楽しむ方に大人気のエリアです。今年6月1日から、株式会社まちづくり寄居が管理運営にあっています。今後、利用者の利便性を考え、さらなる良質なサービスを追求していきます。また、隣接する埼玉県立川の博物館があることから、夏休みには多くの親子連れで賑わいます。



概要

所在 / 埼玉県大里郡寄居町大字保田原地内
面積 / 約67,650㎡ 収容可能車両台数 / 約400台

利用時間等 / 午前9時から午後5時まで(休業日:1月1日~1月4日まで毎週水・木曜日)

環境美化協力金:二輪車(自転車・バイク等):300円/日

乗用車(キャンピングカー等):500円/日

マイクロバス等:1,000円/日

徒歩:100円/日

問い合わせ:株式会社まちづくり寄居 ☎048-580-7880



Web



県立川の博物館

日本一の大きさ(直径24.2メートル)を誇る木製の大水車が迎えます。その大きさに観覧車と間違える人も。館内は、ウォーターアスレチックや噴水広場などのレジャーも充実しています。



ヨリイノアート。

まちのアーティスト紹介

切り紙作家

室岡 昭子さん
MUROOKA AKIKO

町立図書館に飾られた美しい切り紙作品。

町内在住の切り紙作家・室岡昭子さんの作品だ。

室岡さんは15年ほど前に、東京都内でデザインの仕事をしながらお絵かき教室のアシスタントをしていた。生徒の子どもたちと切り紙をしていた時、「ただ切るだけでなく、デザインを考えて切ってみた」ことが、切り紙を本格的に始めるきっかけだった。

「紙を『折って』『切って』『開いた』時のワクワク感と左右対称の美しさ、なにより切ることがとても楽しくて、大好きなんです」。

と微笑む。

美しく、そしてかわいらしい切り紙のデザインは、どうやって生まれるのだろう。

「日々の暮らしの中や、図鑑を見たり、外を見たり。色々なものを見てイメージを頭の中で作る。切り紙はデザインが大切で、時間をかけて考えます」。



左右対称の美しさが際立つ

「動物や植物の線が好きなんです。自然の物の曲線、そのシルエット。シンプルな美しさをデザインしていきたいです」。

確かに、切り紙は基本、シルエット。室岡さんの作品は、光を浴びてシルエットが浮かび上がり、より一層、印象的な左右対称の美しさが際立つ。そして、その影も切り紙との対称となり、また美しい。

光を浴びて表現される、無数の色彩の中に居ながら、光と影で魅せるモノクロームの世界。色彩表現とは違う、でも凜とした美しさ。

なるほど、日本人が古来より持つ、繊細な引き算の美学がそこにあるのかもしれない。

「今後は、紙以外の素材を使った作品など、やってみたい構想がたくさんあります。寄居駅南口の拠点施設はガラス貼りの施設と聞いています。そこに合う作品も出来たらいいですね」。

室岡さんは、これまでも数々の作品を提供してきた。それは“寄居愛”とともに、作品を見た人に喜んでほしい気持ちからだという。「作品を見てくれた、たくさんの方がとても喜んでくれました。これからも見た方の心を動かすような作品を作っていきます」。

自然体でいることがまちを盛り上げることにつながる。自分のできることを自分の表現で行うことが、結果的にまちづくりとなる。まちづくりの本来のカタチとは、こういうことなのだと改めて感じた。



光が差し込み、より美しさが増す

PROFILE

切り紙作家、寄居町生まれ、町内在住。日々の暮らし、動物、植物などをモチーフに切り紙を制作。個展や展示会で作品を発表している。

また、アロマランプやメッセージカードなどのデザインの制作も行う。

著書に「いろがみを折って切る暮らしを彩る季節の切り紙」(講談社)「大人かわいい切り紙図案集」、「大人かわいい切り紙図案集2」(共に、ブティック社)など。翻訳版が海外でも好評を得ている。

イラストレーター

タカハシ サユミさん
TAKAHASHI SAYUMI



『寄居町おうえん娘』のポスター

「趣味として描いていたイラストでしたが、商工会青年部からの依頼を機に、本格的にイラストレーターとして活動を始めました。『寄居町おうえん娘』を描き始めたのもその時期です」。

学生時代に千葉県で生活していたタカハシさんが、寄居町に戻った際に「いい町だな」と改めて感じ、その当時の思いが『寄居町おうえん娘』を生み出すきっかけになった。

どのキャラクターもかわいらしく、第一印象を決める『顔』にこだわって描いているとのこと。さまざまな表情を見せるキャラクターには愛らしさがあり、見た人を引き付ける魅力がある。

また、面白いのが、キャラクターのネーミングや背景は、寄居町に因んだところから着想を得ているという点。歴史、産業、自然、特産品など、取り上げるテーマはさまざま。タカハシさんは、「そのイメージを持たせたキャラクターをデザインし、ファッションを合わせるなど、細部にもこだわる。大変なこともあるけど、その分完成したキャラクターとの『出会い』には特別な喜びがある」と笑みをこぼす。

「まちづくり」にも意欲があり、「ポスターなどのデザインを通して町を盛り上げたい。イラストに興味を持ってもらい、それが寄居町に興味を持ってもらえるきっかけになったら嬉しい」と話すタカハシさんからは、寄居町への愛と熱意が感じられた。

現在、イラストの仕事は、地元商店や飲食店からの注文がメインとのことだが、将来的には、多くの子どもたちに見てもらえるようなイラスト制作にも関わっていききたいとのこと。「子供たちが親しみやすいイラストを使って、教材や、ポスターなどの制作に携り、子どもたちにイラストを楽しんでもらいたい。そして、元気に、不安のない生活を送ってもらいたい」と力強く話してくれたその笑顔に、町の将来を担う子どもたちへの期待とエールを感じた。

小学生時代からイラストを楽しんでいたタカハシさんだからこそ使える「イラストの力」に今後も注目したい。

PROFILE

イラストレーター、寄居町生まれ、町内在住。地元商店や飲食店、町商工会からの依頼により、イラスト制作を行っている。今注目のイラストレーターです。「寄居町おうえん娘」をはじめ、地域密着型イラストが特徴。Instagramでも、作品が公開されているので必見です。

まちなかを歩くと、昭和レトロが残る町並みの中に、ひと際目を引くポスターに出会う。かわいらしいキャラクターが微笑むそのポスターには、「寄居町おうえん娘」の文字。

この作品を手掛けたのは、寄居町出身、在住のイラストレーター・タカハシサユミさん。依頼のイラストを制作する傍ら、SNSを使ってイラストを公開するなど、精力的に活動している。

小学生のころ、アニメのキャラクターを実際に自分で描いてみたことをきっかけにイラストの世界に足を踏み込んだそう。始めは、模写をしていたタカハシさんも、徐々にオリジナルのイラストを描き始め、今ではキャラクターをデザインするまでに至りました。



雀宮公園をイメージしたキャラクター「雀宮もみじ」



Instagram

今後まち内の芸術家について取り上げます。情報をお持ちの方は、お気軽にまちづくり寄居までお寄せください。情報提供お待ちしております。

鐘撞堂山(標高330m)



日帰り登山で人気の鐘撞堂山へ

寄居駅北口を出ると、役場の建物の北側に小高い山が見えます。日帰り登山で人気の『鐘撞堂山』です。標高330.2mのこの山は、戦国時代に鉢形城の見張り場で、合図のために鐘を撞いたことからその名がつけられたといわれています。諸説あるようですが、鉢形城主の北条氏邦の義父、康邦が鐘撞堂を造ったと言われ、敵が来襲した場合には、この鐘が撞きだされ、近隣の諸城へと、鐘から鐘へ合図が伝達される仕組みになっていたそうです。鉢形城開城に伴って、この鐘も取り去られたといわれています。

そんな歴史ある山頂からは、関東平野が一望でき、遠くは日本百名山の筑波山、両神山、また条件がいい日にはスカイツリーなども見ることができます。寄居駅からは片道1時間ちょっとの道のり。日頃運動不足の筆者が、頂上まで歩いてみました。

ある晴れた日の午後、鐘撞堂山山頂をめざし寄居駅北口からスタート。見慣れた北口ロータリーも役場の庁舎も、歩く目線だといつもと違って見えます。寄居町発行のハイキングガイド『Let's Hike! Vol.2 円良田湖コース』を片手に、コースガイドのとおり進みます。実は私は鐘撞堂山の麓の出身。いわば“うちの裏山”的な山であり、近すぎてあまり登る機会がありませんでした。どのあたりが人気の秘密なのかなあと考えながら、見慣れた風景を眺めながら進みます。

国道140号のバイパスを渡ると、だんだんと緩い坂道となります。山に近づいてきたな、と思いながらしばらく車道を歩いていると、ほどなく大正池に着きます。この池は大正6年に竣工した農業用ため池で、当時、地元の方が毎日3、40人出て人力で掘り、約2年の歳月をかけ完成したそうです。私の祖父も工事に参加したと聞いていましたが、水筒の飲物を飲みながら池を見ると、先人たちの苦労がしのべれます。ちなみに、大正池の先には観光トイレがありません。ここで済ませておくことをおすすめします。

大正池を過ぎると一気に緑の中へ。木々の間を心地よい風が吹き抜けます。途中林道と分かると、一層道幅が狭くなり登山道らしくなります。集落跡や炭焼小屋などを過ぎ、快適な遊歩道を進み尾根伝いの道にでると、頂上まではもうすぐです。円良田湖方面への分かれ道の先には、階段が頂上まで続いています。運動不足の体には、これがツライ。途中で何度も心が折れそうになりつつ、悶えながらもなんとか頂上に到着です。

頂上にはその名のとおり鐘があり、ひとまず撞いてから後ろを振り返ると絶景が！ 目の前に関東平野が広がり、疲れた体も癒されます。確かにここならば、古の武士たちも敵を見つけることが容易だったことでしょう。この日はやや霞んでいましたが、筑波山がうっすらと見え、さいたま新都心あたりまで肉眼で見えました。頂上までは寄居駅からゆっくり歩いても1時間ほど。眺望がいいことはもちろん、このアクセス性



のよさと、快適な登山道、登山初心者の方でも安心の距離などが、人気である理由だと思います。

頂上からは、円良田湖方面に下り波久礼駅に向かうことができます。今回のルート以外にも、桜沢駅方面から八幡大神社を経由し尾根伝いに登るルート、用土グラウンドから登るルート、鐘撞堂山の南にある高根山を経由するコースもあります。

それぞれのルートとも1時間程度で登れ、ルートマップと案内看板に従いながら、安心して快適な登山が楽しめます。ただし、場所により急な斜面や岩場もありますので、登山用の装備をご用意いただき、ご注意のうえ、お楽しみください。

株式会社まちづくり寄居とは

本誌を発刊しました「株式会社まちづくり寄居」とは、町をはじめ、商工会、金融機関、民間事業者からの出資を受け、平成28年に設立された「まちづくり会社」です。官民連携によるまちづくり活動に取り組み、町の活性化を目指しています。

町の中心市街地活性化基本計画の推進により、中央通り線や駅前拠点施設及び広場のハード面の整備が進められている中で、完成後、それらを生かしたソフト事業の実施が重要になることから、町と連携し、官民連携での事業を展開しています。

本誌の発刊も、その事業の一環として実施しているもので、今後の寄居町の活性化に向けた機運醸成を図っています。今後も積極的にソフト事業に取り組みますので、皆様のご参画をお願いします。



まちづくり寄居Instagram

編集後記

このたび、まちなか情報紙「あっLOOK」を創刊させていただくこととなりました。寄居を歩き、見ていただき、皆さんのお気に入りを見つけていただく一助となればと思います。▼発刊にあたり改めてまちなかを見渡すと、唯一無二の、この町にしかない人やお店、名所があることに気づきます。この情報紙を手にとって見てもらうことで、少しでも寄居町の魅力を知っていただければと思います。そして、今回ご紹介したスポットを巡っていただき、まちづくりを身近に感じ、皆さんに参画していただくことを意識し、編集しています。▼発刊にあたりたくさんの方に協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。今後も不定期に発刊していきますので、引き続き皆さんのご協力をお願いします。